

令和4年1月 経営経済動向調査結果 (要約)

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会

宇城久地域ビジネスサポートセンター (宇治商工会議所・城陽商工会議所・久御山町商工会)

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会では、景気動向を把握するために、宇治・城陽・久御山区域内に有する企業を対象にアンケート調査を行った。

今回は、令和3年7月～12月期実績と、令和4年1月～6月期予測についての調査を本年1月に実施。566社から回答 (回答率56.6%) を得た。

1. 業界の景気

各企業が感じる“業界の景気”は全業種で令和3年上期実績の「下降」値が50.3%、令和4年上期予測42.4%、BSI値は、▲17.6ポイントから▲13.5ポイントとわずかに上昇しており、業界全体の数値は景気回復を予測しているが、業種ごとの不安要因があるせいかなかまだまだ先行きの悪いと予測となっている。

業種別の令和3年下期実績と令和4年上期予測での飲食業、運輸・通信業、建設業の「下降」値とBSI値は悪化しており、新型コロナウイルス感染拡大による再度のまん延防止等重点措置の発出、原油高騰による燃料費高、ウッドショック等の要因もあり、この業種についての景気回復は遅れる予測である。

規模別では、令和3年下期実績と令和4年上期予測の「上昇」値を比較するとA・B規模企業は減少する予測である。

業界の景気	令和3年1月～6月			令和3年7月～12月						令和4年1月～6月		
	実績			予測			実績			予測		
項目	上	下	B	上	下	B	上	下	B	上	下	B
業種	昇	降	S	昇	降	S	昇	降	S	昇	降	S
	I		I	I		I	I		I	I		I
全業種	15.1	50.3	▲17.6	14.4	47.7	▲16.7	18.2	44.5	▲13.1	15.5	42.4	▲13.5
製造業	24.6	42.1	▲8.8	23.1	39.4	▲8.2	27.3	39.7	▲6.2	22.9	34.2	▲5.6
卸・小売業	6.9	53.4	▲23.3	2.8	55.6	▲26.4	7.0	50.0	▲21.5	8.4	44.6	▲18.1
飲食業	0.0	90.9	▲45.5	3.1	84.4	▲40.7	10.0	54.0	▲22.0	8.3	66.7	▲29.2
運輸・通信業	7.7	61.5	▲26.9	15.4	53.9	▲19.3	9.1	54.5	▲22.7	0.0	81.0	▲40.5
建設業	5.9	41.1	▲17.6	5.9	47.1	▲20.6	12.3	41.1	▲14.4	8.5	45.1	▲18.3
サービス業	8.8	57.9	▲24.6	10.7	46.5	▲17.9	11.3	50.0	▲19.4	11.5	39.3	▲13.9
A規模企業	29.1	25.8	1.7	30.1	21.6	4.3	31.4	29.4	1.0	23.8	28.7	▲2.5
B規模企業	11.3	56.8	▲22.8	10.0	54.8	▲22.4	15.3	47.8	▲16.3	13.6	45.4	▲15.9

(注) BSI値とは、企業経営者の景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示すもので、プラスならば「強気」「楽観」、マイナス (▲) ならば「弱気」「悲観」を意味する。

算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引きし、2分の1を乗じて計算する。

またA規模企業は従業員20人以上の企業で、B規模企業は19人以下の企業。

2. 自社の操業度

各企業における“自社の操業度”の全業種では、令和3年上期実績と下期実績を比較すると「上昇」値が向上、BSI値も3.8ポイント改善した。しかしながら、令和4年上期予測は、長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響やその他の外部要因が重なり好転するだけの材料が乏しいとの認識により、それぞれの数値は縮小しBSI値も▲1.8ポイントの悪化と予測されている。業種別の令和3年下期実績と令和4年上期予測では製造業、飲食業、運輸・通信業、建設業の全業種及び規模別において体数値悪化が予測され、操業度も低下する予測である。

3. 企業経営動向

・生産高又は売上高

各企業における“生産高又は売上高”について、全業種をみると令和3年上期実績の「減少」値は50.8%、令和4年上期予測の値は39.5%、BSI値も▲16.5ポイントから▲10.8ポイントと前回調査より回復傾向であるが先行きは厳しいと予測される。業種別の令和3年下期実績と令和4年上期予測のBSI値を比較しても、数値はマイナス値のまま推移し、経済活動の停滞が長期化する見通しであり、厳しい状況が続くと見られる。規模別についても、A・B規模企業ともに依然として苦しい状況が続くと予測される。

・営業利益

各企業における“営業利益”を全業種にみると、令和3年上期実績でのBSI値は▲20.9ポイントであったが、下期実績では▲16.9、令和4年上期予測も微増に改善される予測である。業種別の令和4年上期予測での飲食業、運輸・通信業のBSI値はどの業種よりも高い水準のまま予測推移しており、コロナ禍が企業に与えたダメージの深さが伺える。規模別にみると、若干の改善を示したB規模企業に比べ、A規模企業は深刻な状況が続くと予測される。

・雇用の状況

各企業における“雇用”の状況を全業種でみると、令和3年下期実績と令和4年上期予測では全ての業種が「増加」と予測しており、全業種のBSI値は4.6ポイント増と意欲的と見込まれている。

また、規模別もA・B規模企業ともに雇用に関しては前向きであると予測される。

4. 当面の経営上の問題点

各企業における経営上の問題点で、全業種を平均して最も多いのは「原材料価格高」の51.4%、「売上・受注不振」48.1%、「求人難」30.4%、「原材料仕入難」28.4%、「人件費の高騰」21.0%の順になっており、前回調査の問題点1位であった「売上・受注不振」と入れ替わった。

業種別でも「原材料価格高」の問題点が製造業(59.3%)、飲食業(76.5%)、建設業(52.1%)と高い水準であり、規模別もA規模企業(56.9%)、B規模企業(50.2%)とも半数以上を占めている。

5. ウィズコロナ及びアフターコロナに向けた取り組みは何を予定または実施されていますか。

設問に対する最も多い回答は245社の「マスク等消耗品の備蓄」で、回答事業者の43.3%を占めた。ついで「オンライン会議の開催」で122社(21.6%)、「事業継承、後継者の育成」で86社(15.2%)、「従業員確保のための賃上げ」84社(14.8%)、「オンラインによる商談会・展示会等のイベントへの参加」で79社(14.0%)が上位を占めた。

今回の調査結果から、自身を守る基本的なマスク等の備蓄は必須であり、非対面の推進によりリアルよりもオンラインによる会議等が急速に進んでいくものと推測される。